

第5章 テクニカル・ブリーフィング

第5章 テクニカル・ブリーフィング

第1節 テクニカル・ブリーフィングの概要

1 位置付け

テクニカル・ブリーフィングは、平成25（2013）年7月3日・4日の2日間、スイス連邦ローザンヌ市において行われた。イスタンブル、東京、マドリードの3立候補都市が、全IOC委員に対して開催計画の詳細について説明する機会で、プレゼンテーション（質疑応答も含む）、記者会見及びブース展示の機会が付与された。各立候補都市にとって、開催都市を決定するIOC総会前に、IOC委員全員へ直接プレゼンテーションを行うことのできる唯一の機会であった。

2 日程及び会場

月 日	内 容
7月3日 (水)	立候補都市によるプレゼンテーション及び質疑応答 記者会見 (ボーリュー・カンファレンス・センター)
7月4日 (木)	各都市ブース展示 (ローザンヌパレスホテル)

3 参加資格

テクニカル・ブリーフィングへの参加については事前にIOC側から通知があり、立候補都市側から参加できる人数は制限があった。また、IOC側もIOC委員に限定され、ゲスト、傍聴者及びマスコミの参加は一切認められなかった。

(1) 立候補都市側

- ・プレゼンター6名

プレゼンター6名に加えて、自国のIOC委員及び質疑応答に対応する者が登壇することができ、最大10名の登壇が可能。

- ・登壇者以外に技術者3名（パソコンやプロンプター等の操作技術者）

(2) IOC側

全IOC委員

各会場への入場は厳しく制限されており、参加者が入場する際にはアクリティーション（AD）の提示が義務付けられた。ADはIOC委員と各立候補都市の参加者（合計13名）に配付された。

4 テクニカル・ブリーフィングの構成

プレゼンテーション45分、質疑応答45分。プレゼンテーションは立候補ファイルの内容に沿ったものに限られ、立候補ファイルに載っていない新しい情報や変更についてのプレゼンテーションは認められなかった。

また、プレゼンテーションを行う上で、IOC 委員が特に興味があるポイントが示された。

- ① 2020 大会の総合的なビジョン。都市/地域にとってのレガシー(例：経済面、環境面、社会面のインパクト)、オリンピックムーブメント、スポーツ全般に関することを含む。
- ② 全般的な大会コンセプト：すべての競技・非競技会場を含むコンセプトのビジュアルプレゼンテーション
- ③ 競技のコンセプト：建設状況、資金調達、スポーツレガシーに関する情報を含む各競技会場のビジュアルプレゼンテーション
- ④ 選手村のコンセプト：資金調達や建設に関する情報を含む選手村のビジュアルプレゼンテーション
- ⑤ IBC/MPC のコンセプト：資金調達や建設（該当する場合）に関する情報を含む IBC/MPC のビジュアルプレゼンテーション
- ⑥ パラリンピック競技大会のコンセプト：全体的な考え方とコンセプトに関するビジュアルプレゼンテーション
- ⑦ 環境関係の主要なプロジェクトや取組の概要
- ⑧ セキュリティ及び医療サービス
- ⑨ 様々なクライアントグループのための宿泊コンセプト。保証された客室数及び提供率を含む。
- ⑩ 様々なクライアントグループのための輸送コンセプト
- ⑪ 予算一組織委員会予算と非組織委員会予算の概要(2012 年米ドル基準)。主要な収入・支出の内訳を含む。
- ⑫ 大会計画に関する主なリスクは何で、そうしたリスクを管理するためにどのような方法を取るか、という立候補都市の認識

プレゼンテーション会場におけるプロンプター等の機材は IOC によって準備されたものを使用した。また、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、アラビア語、ドイツ語の同時通訳は IOC によって用意された。

テクニカル・ブリーフィング日程

月 日	時 間	内 容
7月2日 (火)	09:00 11:30 14:30	イスタンブル技術チェック 東京技術チェック マドリード技術チェック (ボーリュー・カンファレンス・センター)
	午後	ブース設置準備 (ローザンヌパレスホテル)

月 日	時 間	内 容
7月3日 (水)	09:00 09:15 10:00 10:45 11:15 11:20 12:00 12:45 14:15 14:20 15:00 16:00	テクニカル・ブリーフィング開会 イスタンブルプレゼンテーション（45分間） イスタンブル質疑応答 休憩 東京プレゼンテーション（45分間） イスタンブル記者会見（20分間） 東京質疑応答（45分間） 昼食 マドリードプレゼンテーション（45分間） 東京記者会見（20分間） マドリード質疑応答（45分間） マドリード記者会見（20分間） 終了 （ボーリュー・カンファレンス・センター）
	18:00 20:00 終日	ローザンヌ市主催レセプション (IOC会長及びIOC委員) IOC委員、立候補都市との夕食会 ブース設置準備（ローザンヌパレスホテル）
7月4日 (木)	8:30 11:00 11:45 12:45 午後	IOC委員のブースへの個別訪問 ブースのメディア公開 IOC委員、立候補都市との昼食会 終了 （ローザンヌパレスホテル） IOC臨時総会（IOC委員のみ） （ボーリュー・カンファレンス・センター）

第2節 プレゼンテーション

テクニカル・プレゼンテーションの初日に、出席した86名のIOC委員に対するプレゼンテーション及び質疑応答を行った。

ここでは、IOCから提示された要件を全て満たすプレゼンテーションを行うとともに、東京が強みとする優れた開催計画をアピールすることにより、東京への支持拡大につなげる必要があった。

1 プレゼンテーション等の実施

(1) 概要

ア 日時

平成25(2013)年7月3日 11時15分から12時45分まで
11時15分から12時00分まで プレゼンテーション
12時00分から12時45分まで 質疑応答

イ 会場

スイス連邦ローザンヌ市 ポーリュ・カンファレンス・センター

ウ 登壇者

氏名	役職(当時)
竹田 恒和	招致委員会理事長
麻生 太郎	副総理
猪瀬 直樹	東京都知事
滝川クリステル	招致“Cool Tokyo”アンバサダー
水野 正人	招致委員会専務理事
太田 雄貴	オリンピアン/招致アンバサダー
河野 一郎	招致委員会理事/日本スポーツ振興センター 理事長
荒木田裕子	招致委員会スポーツディレクター
延與 桂	東京都スポーツ振興局競技計画担当部長
荒井由希子	招致委員会国際部ディレクター

(2) プレゼンテーション

登壇者のうち、河野理事、荒木田理事、延與部長、荒井ディレクターを除く6名が順次プレゼンテーションを行った。IOC委員に開催計画をより理解してもらうため、スライドで地図や数字を示すほか、映像も織り交ぜて実施した(内容は次頁の表「プレゼンテーション構成」参照)。

(3) 質疑応答

IOC委員から開催計画に関する質問があったが、作成した想定問答等を踏まえ、的確に回答に留意した。質疑応答は45分の割当てがあつたが、20分で終了した。

2 成果

IOC委員に対して直接、東京の強みであるコンパクトな会場配置・財政力・セキュリティ等について説明し、東京の魅力について、IOC委員や招致関係者等に強く印象付けることができた。



プレゼンテーション登壇者

プレゼンテーション構成

プレゼンター	要旨
竹田 恒和 (招致委員会理事長)	<ul style="list-style-type: none"> 40億人が住み、10億人の若者が住むアジアの代表 3つの強み (Delivery、Celebration、Innovation) でオリンピックファミリーに貢献
麻生 太郎 (副総理)	<ul style="list-style-type: none"> 政府の全面的な支援 財政面での支援、より安全でストレスフリーな都市となるような取組 オリンピズムの普及促進 メインスタジアムにオリンピックミュージアムとオリンピック教育プラットフォームを併設 中学校の教科書でオリンピズムに言及、高等学校の教科書でアンチドーピングの重要性に言及 3000人以上の指導者を80カ国以上に派遣、90カ国以上にスポーツ用品の提供や施設建設のサポート Sport for Tomorrow WADAへの支援強化、海外派遣指導者数の倍増、国際スポーツアカデミー設立
猪瀬 直樹 (東京都知事)	<ul style="list-style-type: none"> 安全な都市、東京 旅行者に対する調査で世界で最も安全な都市と評価 昼夜問わず誰もが安心して街を歩ける。 磐石な財政基盤 世界最大の経済規模を有する都市、45億ドルの大会準備基金 世界有数の輸送システム
滝川 クリスティル (招致“Cool Tokyo”アンバサダー)	<ul style="list-style-type: none"> 世界トップクラスの交通輸送ネットワーク エリアによって異なる独特の雰囲気と魅力 東洋と西洋が出会う街

水野 正人 (招致委員会専務理事)	<ul style="list-style-type: none">• 2016 年招致の良い部分は維持、できる部分は更に改善• 現実的な予算 non-OCOG の設備投資予算は 44 億ドルで大会開催準備基金の範囲内 OCOG 予算の 34 億ドルも収支が均衡• 世界で最も安全な都市の中心で開催される大会 オリンピック競技会場の 85%、パラリンピック競技会場の 95% が選手村から 8km 圏内 大会の雰囲気を守るセキュリティ対策、指揮命令系統が一元化された統合的なセキュリティ計画
太田 雄貴 (オリンピアン/招致アンバサダー)	<ul style="list-style-type: none">• 選手村の素晴らしい立地と施設• 満席の会場はオリンピックムーブメントの国際的プロモーションの機会となる。
竹田 恒和 (招致委員会理事長)	<ul style="list-style-type: none">• 不確実な時代にあっても確実性を提供• オリンピック・ムーブメントに貢献、スポーツの力を信じるすべての人々に恩恵

第3節 ブース展開

ブースは、7月3日のプレゼンテーションを受けて、更に詳細な質問のあるIOC委員に対して、立候補都市がその質問を受け付ける場所として設置された。この中には開催計画をより詳細に説明するためのパネルや模型などを置くことができ、より分かりやすく東京大会の優れた点を示すことができた。

立候補都市にとって、IOC委員に対して個別に開催計画をアピールできる機会であるとともに、国内外のメディアに対しても東京の魅力をアピールする絶好の機会であった。

このブースは、開催計画を説明する場なので、装飾は控えめにし、先端技術を活用したブースにするなど、工夫を凝らして計画を説明した。また、日本ならではのおもてなし空間を創出し、日本酒を提供するなど、日本らしさを感じていただけるように工夫した。

1 展示概要

(1) 開催日時

平成25（2013）年7月4日（木）

午前8時30分から午前11時まで IOC委員への公開

午前11時から午後12時まで メディア公開

(2) 開催場所

ローザンヌパレスホテル

(3) 来場者数

IOC委員66名

(4) 展示物

8Kモニター、マルチディスプレイによる東京の開催計画の紹介、壁面マップ、オリンピックスタジアム模型、映像上映、資料展示 等

(5) 展示資料等

立候補ファイル、招致PR資料（Why & How Book, Discover Tomorrow）、立候補ファイル概要版、東京の紹介冊子（The Future In Tokyo, Tokyo Colors）、東京都スポーツ振興計画、2020年の東京、東京の観光ブローシャー（東京ハンドイガイド、東京ハンドィマップ）

(6) 経緯・スケジュール

平成25（2013）年

2月下旬 IOCよりブースのガイドライン発表

5月下旬 プrezentationルームの主要展示物決定

6月上旬 現場視察、展示物、配布物作成

6月中旬 荷物発送

2 成果

総勢66名ものIOC委員が訪れる等、東京のブースは盛況であった。明るい空間の中、最先端の技術を利用した画像や、大画面での計画紹介、また、アスリートなどが日本のおもてなしを行った東京ブースは、好評を博した。各都市もそれぞれ特徴のあるブース展開を行っていたが、東京は高い技術力を活かした展示が、来訪者の注目を集めた。特に8Kやマルチ

ディスプレイを利用した計画説明について、「東京の技術はIOC委員にも好評」と海外メディアに紹介された。

テクニカル・ブリーフィング ブース展示の概略

ブースのサイズ：8.35m × 10.9m



第4節 メディア対応

IOC委員が直接目にする可能性の高い海外メディアによる報道を獲得するとともに、国際的な世論の支持を得るため、現地において国内外のメディアに対して積極的に広報活動を行った。具体的な取組内容は以下のとおりである。

月日	会場	内容
7月2日 (火)	プレゼンテーション会場	<ul style="list-style-type: none"> 公式リハーサル前のフォトセッション 公式リハーサル後の竹田理事長、都知事、太田選手への囲み取材
	ローザンヌ市内ホテル	<ul style="list-style-type: none"> 海外メディア取材 参加者：竹田理事長、都知事、
7月3日 (水)	プレゼンテーション会場	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション前にフォトセッション プレゼンテーション後に、竹田会長、都知事、太田選手、滝川氏への囲み取材 プレゼンテーション後に記者会見
7月4日 (木)	ローザンヌ市内ホテル	<ul style="list-style-type: none"> ブース内での取材機会提供

なお、国内においては、7月3日にプレゼンテーションに係るプレス発表を行った。

- 記者会見

7月3日、招致都市による記者会見を実施し、約100名のメディアが参加した。

登壇者：

竹田恒和	(招致委員会理事長)
猪瀬直樹	(東京都知事)
麻生太郎	(副総理)
水野正人	(招致委員会専務理事)
太田雄貴	(オリンピアン・招致アンバサダー)
滝川クリステル	(招致“Cool Tokyo”アンバサダー)

- 現地におけるラウンドテーブル・個別取材

- オリンピックメディア、主要海外通信社向けに2件のラウンドテーブルを実施。
- ブースにおいて、主要海外テレビ局・新聞社・通信社向けに取材を実施

日付	活動	登壇者	出席海外媒体
7月2日 (火)	ラウンドテーブル	竹田理事長 猪瀬都知事	<ul style="list-style-type: none"> • Alan Abrahamson (3 Wire Sport) • Ed Hula (Around the Rings) • Steve Wilson (AP) • Pirate Irwin (AFP) • Stéphanie Pertuiset (AFP) • Sven Maria Busch (dpa) • Evi Simeoni (Frankfurter Allgemeine) • David Owen (Inside the Games) • Alain Lunzenfichter (L' Equipe) • Marc Chevrier (L' Equipe) • David Miller (Sport Intern) • Callum Murray (SportCal) • Laura Walden (Sport Features)
7月3日 (水)	記者会見	プレゼンター全員	会場内満席
7月4日 (木)	ラウンドテーブル	麻生副総理	<ul style="list-style-type: none"> • Natalia Arriaga (EFE) • Alan Abrahamson (3 Wire Sport)
7月4日 (木)	グループ取材 (於 Tokyo 2020 ブース)	竹田理事長	<ul style="list-style-type: none"> • Alex Capstick (BBC World Service) • Owen Gibson (Guardian) • Sebastian Fest (dpa)